

# 昭和肥料ニュース

FAX版



Vol. 065

## EC（土壌の塩類※濃度）の話 ※塩類…硝酸態窒素、各塩化物、各硫化物等

土作りや施肥量を考える時に、土に肥料分がどれだけ残っているのかを知る必要があります。土壌中の塩類濃度を示す指標は「EC」と呼ばれ、ECが適正值（作物、土質により変わりますが0.4～1.0mS/cm）を超えると発芽障害、生育悪化を引き起こし、収量は減少します。

ECが高すぎる土 = 無駄に肥料が残っている土は、根が塩漬け状態になり、水・必要な栄養分が吸えなくなります。生育が悪いからと肥料をさらにやると、益々生育が悪くなる場合はECが高いかもしれません。

## ECを高めないために、施肥量・施肥資材に注意しよう

土壌塩類の集積を加速させる原因は堆肥・肥料の多投です。

①ECを測定し、適正な状態かを知る（勘での判断はやめましょう）

②地域の基準施用量を参考に、肥料・堆肥はやりすぎない

（特に、塩化物や硝酸塩（窒素全般）を主成分とした肥料のやりすぎには要注意です）  
 の手順が基本です。肥料の不足で育ちが悪くなることを危惧する生産者様へは、以下の表を参考に肥料量を調整をご提案してみてください。

EC値	砂土～砂壤土	壤土～埴土
0.4以下	基準量	基準量
0.5～0.7	基準の1/2	基準の2/3
0.8～1.1	基準の1/3	基準の1/2
1.2～1.4	無施用	基準の1/3
1.5以上	無施用	無施用

左表は一般的な野菜栽培での窒素成分の施用量の目安です。

リン酸分については、ク溶性のリン酸を主体に基準量を施用する。

加里分は堆肥施用が多いなら窒素同様に減肥する（堆肥類には加里が多く含まれる傾向があるため）

## 高温傾向時の安定生育を目指すには

今年の春先は高温傾向との予想です。作物が水分を多く欲しがり、土からの蒸散も増え塩類集積しやすいと考えられます。（ECが高まりやすく、障害へ繋がる）

そんな予想の時は、高成分で溶出がドバっと出る肥料や、地温によって栄養分放出が左右される堆肥類を使用している場合は特に注意が必要です。

- ・多少高価でも、溶出コントロールの効く肥料を適量使う
- ・堆肥の施用量を控えめにして、追肥で調整できるようにする
- ・水管理は小まめに丁寧に行う（乾かしすぎず、多湿すぎずの管理の徹底）

等の工夫をお勧めします。弊社製品の使用で作物の吸収力を高めることも有効な一手です。土作り&適正施肥で作物本来の能力を引き出し豊作を目指しましょう。



お問い合わせは

TEL 0766-67-2700 FAX 0766-68-1227

HPアドレス <https://showa-f.co.jp>（担当者:岡田）